

## 東京湾三番瀬猫実川河口域カキ礁に伴う底生生物の群集変化-二枚貝と底生有孔虫を例として

### Development of oyster reef and its associated community in the Sanbanze tidal flat - Focusing on bivalves and benthic foraminiferas

# 久保 貴志 [1]

# Takashi Kubo[1]

[1] 東大・理・地惑

[1] earth planet science, Univ of Tokyo

<http://www.jpгу.org/meeting/>

カキ礁の形成過程とカキ礁の進化学的研究を行うため、その現生の比較材料として東京湾三番瀬の猫実川河口域にあるカキ礁の生物群集の変遷を調査している。今回その形成年代と形成過程を調べるために航空写真の検討、14C年代の測定、そしてカキ礁の中心部の掘削を行った。掘削はカキが消えるところまで行い、得られた堆積物を10cmごとにその中から二枚貝と底生有孔虫を検討した。

航空写真の検討、ならびに14C年代の検討により、三番瀬猫実川河口域のカキ礁の形成はこの20年以内に行われた可能性が高い。また掘削調査の結果、カキの個体数の増加に従って二枚貝の群集は変化することが明らかになった。最下部はアサリ *Ruditapes philippinarum* を含む内湾砂泥底に特徴的な群集組成であるが、上位に向かってカキが増加するとともに、*Ruditapes philippinarum* に代わってまずムラサキイガイ *Mytilus galloprovincialis* が産出し、次にウネナシトマヤガイ *Trapezium liratum* へと、内湾岩礁域に特徴的にみられる足糸付着型の群集組成への変化が観察された。有孔虫は *Ammonia beccarii* が優先種であることには変化がないものの、上位に向かって *Miriorinerra* sp. が増えていた。これはカキ礁及びその周辺の環境の変化を反映していると思われる。